

平成27年度第2回（通算 第2回）

## 隠岐の島町総合教育会議 会議録

1. 開催日時 平成27年10月6日（火）9時30分～11時17分
2. 開催場所 隠岐の島町教育委員会 2階会議室
3. 出席者 町長 松田 和久

【隠岐の島町教育委員会】

教育委員長 武田 浩志  
教育委員 秋庭ゆみ子  
教育委員 野津 幸恵  
教育委員 大津 義文  
教育長 山本 和博

【事務局】

八幡総務学校教育課長、中林生涯学習課長、高宮中央公民館長  
砂本総務学校教育課長補佐

4. 議題 (1) 隠岐の島町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について  
(2) 今後の日程について
5. 傍聴人数 6名
6. 会議の経過 別紙のとおり
7. 会議録作成者 総務学校教育課 課長補佐 砂本 進
8. 会議録署名者 署名日 平成27年11月26日

町長

松田 和久

教育委員

武田 浩志

## 別紙（議題の経過）

○開 会（八幡総務学校教育課長）

○町長挨拶

松田町長：今日は2回目の総合教育会議を開催したところご出席頂き、ありがとうございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、総合教育会議を設置するということで先般第1回目の会議を開催させて頂きました。おさらいをしますが、総合教育会議を設置することによりまして、教育に関する予算の編成・執行や条例の提案など、重要な権限を有している地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図る、というものであります。それでは、本日2回目の会議ですが、よろしくお願いいたします。

○会議録署名者の選出

松田町長：はじめに会議録署名者を武田委員にお願いいたします。

◎全員了承した。

○議題（1）隠岐の島町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について  
（説明）

八幡課長：現在策定中の総合戦略（案）の概要について簡単にご説明します。大きく基本目標は4つ考えられています。

- ①隠岐の島町における安定した雇用を創出する。
- ②隠岐の島町への新しい人の流れをつくる。
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

その目標ごとに重点プロジェクト事業が12から24項目定めてあります。その具体的な内容は、住民の皆さんの意見を中心にそれぞれ分類され、まとめてあります。

現在は、基本目標ごとに重点プロジェクト事業を5つに絞り込む作業が進められています。

（質疑・意見交換）

松田町長：それでは、基本目標ごとに意見交換を行いたいと思います。①の安定した雇用を創出するという中の地元愛を育てるところからご意見を頂戴したいと思います。

大津委員：確認ですが、町には以前に定めた総合振興計画があり、今現在総合戦略を検討していますが、今回総合教育会議が作ろうとする教育大綱は、

直近の総合戦略を基に策定するのですか。それとも総合振興計画を基に策定するのですか。

松田町長：総合振興計画というのは町の羅針盤ですから、それを基に現在総合戦略をまとめているところです。教育大綱の基となるのは勿論総合振興計画ですが、総合戦略で検討されていることも取り入れて、教育大綱が策定出来ればと考えています。

大津委員：分かりました。総合戦略でも子育て等の話も具体的に出ていますので、参考に出来ればと思います。

秋庭委員：この総合戦略の計画書に水を差すようなことになるかと思いますが、ここに子ども達が島内の仕事に就くことを推進する組織を学校だけでなく行政と企業も協力して創出していくとありますが、現実には親がないと思うほど仕事がないのではなくて、どこかには就職できていると思っています。ここの意味は分かるのですが、子どもたちに島内に残りましょうをメインにした教育がもしなされるとしたら、子ども本来の教育を考えるといかがなものかなと思わずにはおれません。本来子どもたちが自分で持っている能力・資質それから夢を追いかけて、いかに飛躍できるか、いかに生きる力をつけるかが教育だと思っています。進路相談でも隠岐に残るために本来望まない就職相談が行われていると聞いたことがありますし、色んな可能性を提示した上で隠岐に残るという選択ならば、支援することは勿論ありますが、あまりにも隠岐に残ることに主眼を置き過ぎると子どもにとっての教育とはなんぞやというところに行きつくとチラッと思いました。自分の生きる道というか、本当に自分の能力を生かして行きたいと思っているところに、そういうことで「足かせ」となるようなことは、あってはならないと思っていますので、その辺への配慮というのはとても大切じゃないかと思っています。これを読むとこの辺が引っ掛かってたまりません。

松田町長：隠岐に将来帰って来たい、ふるさとで生活したい、そういった町づくりや町はいかにあるべきかを行政は考えていかなければなりません。隠岐が困っているから隠岐に残りなさいという指導は本来あるべき姿ではないと私も思います。課長、このまとめかたはどうしてこうなっているのかな。

八幡課長：この計画書は、教育という観点ではなく、いつまでも島の人口を維持していくにはどうしたらよいか、消極的ですが、島の子どもたちは島で生活して島で子どもを産んでくれたら島は継続していくとの思いからこうなっていると思います。子どもの未来の可能性を決して否定するものではありませんし、様々な選択肢から飛躍すればいいと思います。地元の方からすると出来るだけ沢山の子どもが残ってくれないかなあというのが思いであり、その思いの人が沢山いらっしゃるということによってこのような表現になっていると思います。

松田町長：例えば、水産高校では実際に漁をしている方から話を聞くということ

や現在の行政の話を書く、また私の話も聞かせて欲しいということもありました。水産高校や隠岐高校で私が話をするときには、一回は都会に出て都会を知って欲しい。そして田舎の良さを都会で知って欲しい、そういうことが大事だと言っています。また、婚期がだんだん遅くなってきているように思いますが、20代・30代のいつの時代でも、どこに住むかというときに隠岐の島も選択肢の一つとなるような町づくりをしていくべきだと私は思います。隠岐に残って欲しい、しかし子どもたちのライフスタイルを枠にあてはめることは、いかななものかということをお自身も思っています。保護者さんも隠岐には仕事が少なくとおっしゃいますが、若者の望む仕事が少ないのであって、決してないわけではないと思っています。

野津委員：この基本目標の中では安定した雇用を創出するという命題がありますのでこういった表現になろうかと思いますが、こと教育に関しては現在町では学力向上対策に力を入れ、子どもたちに学力を付けることが学校教育では一番大事なことであるし、もうひとつは子どもたちの心の中にふるさとを根づかせたいという思いはあります。ふるさとが根づいている子どもたちは、大きくなってたとえ出ていっても、ふるさとがあるから頑張れる子どもたちもいますし、ふるさとがあるから帰れる子どもたちもいます。そういうふるさとを知る教育というのが特に大切じゃないかと思っています。地域地域にあるものやいいところを子どもたちが身に付けて欲しいと思います。それがふるさと教育じゃないかと思っています。今、規模適正化の議論もなされていますが、町として小さい学校を残した方がいいのか、統合して力を集めて集中的に行った方がいいのかを考えていかなければいけないと思います。いずれにしても子どもたちの心ふるさとがしっかり宿った大人になることが大切かなと思います。

大津委員：この総合戦略を理解した上で教育大綱を策定するとしたなら、あえて違うことを言いたいのですが、8月に教育懇話会が開催されました。その時県の教育長が、教育で島根県の人口減に対応出来ることは、という話がありました。一つにはふるさと教育、二つ目に子どもたちに地元の企業を知ってもらうこと、三つ目にしまね留学として県外の高校生を受け入れるです。この総合戦略と通じるところがあります。こう言った事もバランス的には考えないといけないと思います。そういう意味では、この総合戦略は、先の総合振興計画に比べ、より具体的になっているように感じました。

松田町長：人口が激減する中で、人口をいかに確保していくかということがあまりにも表に出過ぎているようなまとめ方になっているように感じるが、その辺はどうか。

八幡課長：この雇用を創出する部分では、どうしても人の確保の話になりがちですが、次の目標の新しい人の流れをつくるでは、ふるさと教育の重要性が記述されていますので、そちらのほうでご意見を頂きたいと思

ます。

武田委員長：職場を知るといことで今中学生が、1週間ほど職場体験をしています。職種によって医療、看護、福祉、保育所等を希望によって体験している訳ですが、大切な事だなどと思っています。また、ジョブカフェとして企業の合同説明会が沢山の企業が参加して高校生に説明したと思いますが、成人式で隠岐に帰ってきた時に企業の話をするのもまた一方では大切な事だと思っています。そういったことの積み重ねが島の若者を増やしていくんじゃないかと思っています。

松田町長：今日の意見交換は、今後何に繋がっていくのか。

八幡課長：前回の総合振興計画の意見交換も含めて、今後策定する教育大綱の素案のキーワードにしたいと考えています。

秋庭委員：隠岐にいたら例えばサザエとか白バイとかは、買うものではなく、頂くものという認識ですが、都会にいと全てお金、でもこの島にいと物々交換ではありませんが、成り立っているというのが都会との大きな違いかと思っています。確かに給料は安くて留まらない人が多いのかもしれないが、それを補って余りある、ある意味都会よりいい生活ができるということ子どもたちに知ってもらうことはとても大事だと思っています。

教育長：去年ジョブフェアを行いました、40数社が参加されました。隠岐校や水高、養護学校の生徒が参加していましたが、子どもたちに隠岐にもこんなに沢山の企業があることを教えることができたことは大変いいことだと思いました。成人式の時に隠岐に仕事があれば帰りたいという人が何人かいたので、その子らにきちんと情報が伝えられればと思います。私は、隠岐の子どもたちが本土に出て、大活躍するのが夢です。現在学力向上に取り組んでいますが、矛盾を感じています。将来、世界で東京で活躍する子が出て来ることがすごくいいことのように思っていました、逆に子どもが全員隠岐に留まった方が良いのかとも思っています。子どもの職業に対する選択肢の幅を広げてあげることが大切で、隠岐に残れと教育することは、子どもがかわいそうと感じます。

松田町長：町では新卒の生徒を採用した企業には、月額7万円を5年間補助する制度を設けています。しかし、企業から言うと5年間持たない、2年くらいで止める子どもが多いと。その原因はと言うと、若い人には遊ぶところがない、行くところもない、給料もそんなに多くない、隠岐汽船の運賃を半額くらいにして、もっと本土との行き来ができるようにしないと2年くらいしか持たないそうです。企業の代表の方からそういう話がありましたので、今広域連合で隠岐汽船運賃低廉化の検討を進めています。

次は、基本目標②の新しい人の流れをつくるに移り、ご意見を頂きたいと思っています。

野津委員：私が本土に行って隠岐の話をするとう皆さん行ってみたいとおっしゃい

ます。でもそういう気持ちがあっても実際には隠岐に来なくて、京都とか他の地域に出かけられる、それは地続きである、車で行けるからだと思います。例えば、東京から隠岐に来ようと思うと非常に難しいんですよ。一人で来ようとする船だとどれに乗ればどこに着くのか分かりづらいです。飛行機だと割と分かりやすいですが。ですので、そういうところのPRと言うか、分かりやすく簡単に來れる工夫とか、運賃が安いとか、その辺がネックになっていると思います。私も未だに隠岐汽船の時刻表が良く理解できないですが、初めての方は、本当に分からないと思います。なんとか、皆さんが気軽に來れるようにならないかと思っています。

もう一つは、隠岐の環境を生かして子育てに悩んでいる人たちとか、不登校の子どもさんとか、自然の中で子育てがしたいと思っている方が増えてると思います。どこに視点を当てれば良いのか分かりませんが、そういうプログラムを策定して1ヶ月体験するとか、或いは里親であずかるとか、そういうニーズが出てきているのかなと思います。昔、那久で取り組んだ時も応募者は多かったように思います。

松田町長：隠岐汽船の本土の寄港地を1カ所にできないかという話があります。私は、七類が良いとか、境港が良いとかということを行ったことは一遍もありません。エージェントは、なぜ境港にならないのかと言っています。隠岐の経済6団体からも、どちらか一方に決められないのかという話も頂いています。このことは、県の会議でも話していますが、住民のコンセンサスを得てからと言うことで、結論は出ていません。町では、現在住民アンケートを実施しており、意向の把握に努めているところです。

山本教育長：現在、町立小中学校規模適正化検討委員会を行っておりますが、その中の委員の意見として、地域振興のために小さい学校を残して欲しい、学校をなくすと地域がさびれるという意見が結構あります。この計画書では、変な言い方ですが子どもを地域振興の道具に使っていると思います。中学生の観光ガイドは、面白いし、観光客にも受けるかもしれませんが、そこまでなるのに学校はどれだけ頑張らないといけないのか、また、県もふるさと教育に力を入れ始めていますが、本町は相当力を入れてやっていると思います。ただ、あまりに学校で、そして子どもたちでとなると、忙しい学校が益々忙しくなってしまいます。隠岐を大好きな子どもを作ることは大賛成ですが、学校に負担をかけることは避けるべきだと思います。

秋庭委員：確かに子ども達は今忙しいと言われています。塾があるわけではないのに、あっちのイベント、こっちのイベントと結構忙しいと思ってるにも関わらず、更に大人も一緒になって自分の島に関わりましょう、好きになりましょうというのは、子どもは益々忙しくて大変だと思います。ただ、学力テストの設問に自然の中で遊ぶというのがありました。隠岐の島町の子どもは国より県より数値が低かったです。当た

り前に自然の中にいるので、そういう認識がないのかも知れません。ただ、子どもがそういう意識を持ってないのは、大人の方に責任があるのかなと思います。自分たちの住んでいるところがどういうところかを子どもたちにしっかりと分かってもらうということは大切なことと思います。

武田委員長：学校現場以外の活動としてクヌギの森があります。地域と連携して、地域を知ることが保護者や子どもたちにとって、大切な事かなと思います。

大津委員：町の振興計画がベースとなっていると思いますが、この総合戦略もあらゆることが網羅されていると感じています。教育の部分は少ないですが、大綱の策定はこれらを踏まえながらになりますので、中々難しいと感じています。先ほどの皆さん方の意見も分かりますが、一方では町の振興と言うこともありますので、その辺のバランスも考えながらの大綱の策定が求められると思います。

松田町長：例えば町づくりの大会等にブラスバンドで子ども達が演奏する時に、発表の場と捉えてやるのか、頼まれたのでイヤイヤやるのか、そのあたりはどんなものでしょうか。こう言う機会は、年間どれくらいあるのでしょうか。

野津委員：確かにそう言ったイベントに出るということは、地域との繋がりもあって良いことだとは思いますが、イベントの時間そのものは短いですが、そこに出るまでは、その何倍もの時間と先生の指導が必要となります。昔大きな客船が入るたびに西郷小学校の鼓笛隊が迎えていたんですが、授業時間を割くとか、ぎりぎり授業に間に合わないとか、そういうことになると本来の学校教育とはかけ離れていると思います。この計画書には、学校に関する事業が沢山掲載されていますが、これを全て学校に持って来られると学校はお手上げになります。学校は、子どもたちが落ち着いて学べる場、学力を付けてあげる場ということをしちんとベースに置いておいて、では学校に年間どれくらいふるさと教育ができて、そういった事業に参加させることが出来るかということ、学校にまかせてもらいたいと思います。

山本教育長：先月の交通安全大会で作文とかプラカードの審査をしたのですが、どこの学校がようけ出してる、どこの学校が出してないとかありますが、1年間に作文、標語、ポスター、習字等で40くらい募集がきます。その中から学校では選んで実施してます。何かの会議ですぐに子どもたちにポスターでも書かせるかという話になります。有難いですが、それには図工の時間を3～4時間はそれに当てなくてはなりません。我々は、子ども達の教育とはどうあるべきかを基に置いていないといけないと思います。

大津委員：小中学校の場合はそうでしょうが、高校の場合は発表する場が少ないため、割と喜ぶように思います。積極的に出たがっているように思います。

松田町長：そういった場をうまく学校教育に活かすということで取り組まないと、行政に利用されてるという思いでは、うまく行かないのかもしれませんが。次は、基本目標③の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる及び④の時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する、に移り、ご意見を頂きたいと思います。

秋庭委員：この計画どおりであれば、隠岐の島町は女性の住みにくい島になるなと感じました。全体に委員の皆さんのおっしゃりたいことは分かるのですが、もう少し検討して欲しいなと思いました。

大津委員：今後の日程のことについて聞きたいのですが、最終的には大綱を作るということですね。総振と違ってこの総合戦略はより具体的になっていますので、教育大綱には参考になるかと思いますが、この後の日程はどうなるのでしょうか。

八幡課長：11月末のところで次の会を予定しています。新年度の重点施策の検討と大綱の骨子の検討をしたいと考えています。

松田町長：ありがとうございました。色々なご意見を頂きましたが、本日はこれで終わりたいと思います。

○閉 会（八幡総務学校教育課長）